

本当に守るべきものを、 失いかけていませんか。

食糧不足や栄養失調で苦しむ人々は、地球上で9億人。

世界に暮らす人々も増え、食料や水、農地の奪い合いが起きている。

その問題を解決するために、新たな食のルール作りが求められています。

ただし、それは人々の暮らしや文化、食事情を踏まえた上で行われるべきものです。

農業は、新鮮で安全な農作物を育てる以外にもたくさんの大切な役割を担っています。

美しい景観を保つ。土地の様々な生き物と共生する。

洪水や土砂崩れなどの自然災害を防ぐ。伝統的文化を継承する。

そして日本で生まれ、長い間愛されてきた日本の食は、

農家の手により、私たちの命とともにこの国の誇りも守ってきました。

しかし、現在、その農業と国のあり方が問われています。

米国や豪州など世界最大の農産物輸出国を含む国々との完全な貿易自由化交渉、

環太平洋経済連携協定 (TPP) への参加を日本は検討しています。

国土条件、農業生産規模の違う日本がこの交渉を締結すれば、

農業の担う役割が失われ、広範な人々の生活が危機に瀕します。

TPP参加により、金融や保険、介護分野などの規制緩和が求められ、

国の形が変わると言われています。

TPPは協定を結んだ国同士が、お互いの関税をなくし「物」「サービス」

だけでなく「お金」や「人」の移動も自由化することになります。

結果として、コスト競争力に乏しい日本の企業や日本人の雇用に影響を与え、

私たちの「暮らし」が犠牲になることになるのです。

ただでさえ厳しい、日本の雇用や景気はどうなってしまうのでしょうか？

私たちJAグループはTPPへの参加に「NO」という答えを示しています。

みなさんもそれぞれの立場で、日本の将来、

国のあり方について今一度考えて欲しいと思います。

